

会社名  
株式会社フィアロコーポレーション

所在地  
埼玉県新座市

ソフトウェア  
Autodesk Alias  
Autodesk Maya  
Autodesk Inventor Professional  
Autodesk Showcase  
Autodesk VRED

私たちが業務の核とする自動車デザインの世界でも、ある程度のパッケージが決まっています。その中でお客様の琴線に触れるデザインを生み出していくことが、私たちのミッションです。多くの場合、それは数値化しきれない美しさや気持ちよさと結びついていますが、私たちはアーティストではないので、限られた時間と予算の中で、その数値化されない何かを追求していかなければなりません。だからこそ、私たちには Alias のような直感的なツールが必要です。それは私たちにとって、真のクリエイティブツールなのです。

一坂田 建吾 氏  
株式会社フィアロコーポレーション  
デザイン開発センター  
執行役員 ゼネラルマネージャー

## さまざまなオートデスク製品を幅広く駆使して 自動車など多様なデザイン開発をトータルに支援

よりインパクトあるアイデアのリソースを提供しようとする  
ツールはおのずとオートデスク製品へと統一されていく



創業 75 周年プロジェクトとして開発したライトウェイトスポーツカー「P75 CIPHER」

### さらなる上流、「クリエーション」の世界へ

株式会社フィアロコーポレーションは、自動車とオートバイを中心とする多様な工業製品分野をフィールドに、新商品の研究開発を一貫してサポートしているデザイン開発会社だ。この分野で 80 年近い歴史を通じ常に第一線を走り続けてきた同社は、文字通り業界を牽引する存在といえるだろう。そして、そんな同社の、特に企画デザイン部門の取組みをトータルにサポートしているのが、Alias を始めとする多彩なオートデスク製品である。インダストリアルデザインソフトとして知られる Alias は、インダストリアルデザインやプロダクト デザイン、自動車デザイン向けの各種ツールを豊富に備え、製品のスケッチングからコンセプトモデリング、サーフェシング、ビジュアライゼーション等を行うことができる。「Alias を導入したのは 2003 年頃のことです。でも、私にとっては、そのはるか以前からずっと欲しくて仕方なかったソフトなんですよ。」そう語るのは執行役員として同社のデザイン部門を統括する坂田建吾氏である。坂田氏によれば、当時は自動車業界のクリエーション業務はインハウスで行われることがほとんどで、それ以外へアウトソースされる機会はきわめて少なかったのである。

「でも、私自身はもともと別の自動車メーカーで絵を描いていた人間なので、非常に直感的に使えるという Alias の噂を聞いてすごく興味があったのです。」そうするうち自動車業界の業務スタイルも徐々

に変化し、クリエーションの仕事がアウトソースされるようになっていった。これを見て、いち早く Alias の導入を決めたのが坂田氏だった。以来今日まで、Alias とその各種ツールを中心とするオートデスク製品を着々と増やしていきながら、同社自身もフィールドを大きく広げていったのである。では、なぜ同社はオートデスク製品を選んだのか？ そこには変わり続ける業界環境のもと、同社が選び取った独自の企業戦略があった。

「わが国の自動車業界が海外へ生産を移管していくなか、目指すべきはどこなのか。……それはさらなる上流だ、と私たちは考えました。そして、そんな私たちの方向性にオートデスクの製品群が見事にフィットしました。もちろん他社ツールを使わないわけではありませんが、インパクトあるアイデアのリソースを提供しようとする、おのずとオートデスク製品に統一されていったのです。」特に坂田氏が統括しているデザイン開発センターは、ものづくりの最上流となる新商品のアイデアやデザインが固まるまでを守備範囲としているだけに、オートデスク製品がびたりと嵌ったのだという。

では、そんなデザイン開発センターでは、どのようなオートデスク製品をどう組合せ、使い分けて、斯界屈指といわれる高度なクリエーションを行っているのだろうか。



株式会社フィアロコーポレーション  
デザイン開発センター  
執行役員 ゼネラルマネージャー  
坂田 建吾 氏

# オートデスク製品の幅広い活用で作業時間を 1/3 に短縮！ 産み出した時間でより深くクリエイションを突き詰める

**デザイン、プレゼン、そして機構設計までトータルに**  
「私たちの仕事は、お客様の発注内容を元にアイデアを練り、スケッチを描くことから始まります。」お客様の指示は手描きしたスケッチや言葉による説明などさまざま。これに写真等の参考資料を添え「こんな雰囲気」の「こんな質感」で「このパッケージに」と依頼されることが多いという。

「仕上げたスケッチは Alias か Alias SpeedFormで、とりえず立体化します。角が立ったモノは Alias で面を貼って作りますが、シートなど柔らかいモノは Alias SpeedForm が使いやすいですね。」いずれにせよ初期段階はスピードが最優先。少しでも早く形にしてお客様にお見せすることに重点を置いている。だからこそ Alias SpeedForm が威力を発揮するのである。

「とにかく一刻も早くお見せして、お客様に方向性を判断いただくことが大切です。善かれ悪しかれ、判断をもらわないと先に進めませんから。そうやって素早く仕上げることで、お客様のクリエイションにできるだけ時間をかけられるようにしたいのです。」

こうしてお客様との「キャッチボール」は頻りに繰り返されていく。基本は CAD データでのやりとりだが、時には CAD に慣れない方とのやりとりも発生する。そこで必要になるのが Showcase などのプレゼンソフトや Maya による 3D CG、あるいは VRED などレンダリングツールで仕上げる多様なビジュアルライゼーションだ。

「近年は営業やマーケティングの方が関わるケースも増え、ビジュアル化が重要なポイントになります。たとえばラフを Showcase で見せ、次は VRED でレンダリングした美しい CG で見せます。そして重要度の高いプレゼンでは Maya でムービーも作るという具合です。」さすがにムービーは専任のムービー担当が作るが、その他の作業については、各デジタルデザイナーがオートデスク製品を駆使して一貫制作していくのである。

「私たちサプライヤーは多能化していくべきだ、というのが当社のスタンスなのです。それに一気に通貫で任せた方がデジタルデザイナーもしっかり責任を持てるし、モチベーションも上がります。ウチのデジタルデザイナーたちなど、最近は Inventor Professional まで使うようになってますよ。」  
いうまでもなく、Inventor Professional は機械設計専用の 3D CAD である。実際、フィアロ

コーポレーションにおいても、工場部門の設計者がこれを使用している。一般的には Alias ユーザーが Inventor Professional を使うケースはほとんどないが、同社デザイン開発センターのデジタルデザイナーたちはより良いデザインのためにこの Inventor Professional を使い始めたのである。

「ショーカーやイベントモデル、こだわりたいプロダクションでは、見える部分の稼働部についてもデザインした人間が責任を持ちたい、ということでみずから Inventor Professional を使うわけです。最近では絵を描いて Alias で立体化し Inventor Professional で機構も自分で作りあげて、そのまま加工に出すようなデジタルデザイナーもいますよ。」

## 新たな取組みのカギを握るオートデスク製品

このように、デザイン開発から製造部門への橋渡しまで一連のオートデスク製品をトータルかつ統一的に使い分けられるようになり、作業効率は大きく向上したと坂田氏はいう。

「他社ソフトを使っていた頃比べ、作業時間は 1/3 程度に圧縮できていると感じます。しかし、目指しているのは、あくまで効率化した 2/3 を使ってクリエイティブをどこまで深く突き詰められるか。ですからトータルな時間はそれほど変わっていないかも知れませんね。」と坂田氏は笑う。そして、そんな同社の取組みの中で、今後オートデスク製品が果たす役割はますます重いのになっていく。たとえば同社の最も新しい取組みのひとつとして、自動車等のインターフェイス関係の取組みがあるが、その中でオートデスク製品は非常に大きな役割を果たすことになる、と坂田氏は考えている。

「この春、当社では HMI (Human Machine Interface) に関わる専門のチームを新たに立ち上げます。たとえば車載コックピットのモニターも TFT 液晶ディスプレイになれば、そのビジュアル表現もより高度な 3D 化やアニメーション化が求められることになるでしょう。Maya などの活用が非常に重要になるわけで、オートデスク製品の関わる部分がますます面白くなっていくという予感があります。その意味では、実は SCSK に期待する部分も非常に大きいのです。SCSK は販売会社の中でも、特に現場に近くて「熱い」人たちというイメージがあります。サポートでも何でも、私たちと一緒にやっというスタンスなんです。導入支援などのサポートだけでなく、「これから」のビジネスに生かせるような幅広い情報提供を期待したいですね。」



「P75 CIPHER」はフィジカルモデルを使わずに製作された



AI Drone Robot「QUADRO」



Buzz Copter



事故現場探査用ロボット「DDS」



GRASS HOPPER

Autodesk, Autodesk Alias, Autodesk Inventor Professional, Autodesk Maya, Autodesk Showcase and Autodesk VRED are registered trademarks or trademarks of Autodesk, Inc., and/or its subsidiaries and/or affiliates in the USA and/or other countries. All other brand names, product names, or trademarks belong to their respective holders. Autodesk reserves the right to alter product and services offerings, and specifications and pricing at any time without notice, and is not responsible for typographical or graphical errors that may appear in this document.  
©2017 Autodesk, Inc. All rights reserved.

※Autodesk, Autodesk Alias, Autodesk Inventor Professional, Autodesk Maya, Autodesk Showcase と Autodesk VRED は、米国および/またはその他の国々における、Autodesk, Inc., その子会社、関連会社の登録商標または商標です。その他のすべてのブランド名、製品名、または商標は、それぞれの所有者に帰属します。オートデスクは、通知を行うことなくいつでも当該製品およびサービスの提供、機能および価格を変更する権利を留保し、本書中の誤植または図表の誤りについて責任を負いません。  
©2017 Autodesk, Inc. All rights reserved.